

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	社会感情的能力の教育・評価に関わるデザイン How education and evaluation of social-emotional ability should be designed?
実施責任者 Instructors	教育学研究科 教育科学専攻 特定講師 野崎優樹 教育学研究科 教育科学専攻 教授 楠見孝 デザイン学ユニット 特定講師 北雄介
実施協力者 Collaborators	なし
テーマの背景 Background	社会感情的能力とは、「共感力」・「自己制御力」・「ストレス対処力」など、他者と関わりあいながら社会で活躍する上で重要な能力の総称を指し示す用語であり、感情知性とも呼ばれている。近年、国内外の教育現場や企業にて、この「社会感情的能力」を高めるトレーニングプログラムが開催されている。しかし、これらのプログラムには、社会感情的能力のどのような要素を特に対象とするべきなのか、どのような教育環境や手法を用いるべきか、どのようにトレーニングの効果をトラッキングするのか等、さらなる解明が必要な課題は数多く残されている。本演習では、より効果の高い社会感情的能力のトレーニングをデザインしていく上で必要な要素について、様々な分野・見地から意見を出し合い、考察したい。
実習の概要 Overview	本実習は以下の流れで行う。まず、社会感情的能力のトレーニングの問題点を浮き彫りにする調査を計画し、実際に実施する。得られたデータは統計分析を行い、結果をまとめる。そして、得られた結果を基にして、ターゲットとなるその問題点を解決するための方策についてグループで議論を行い、より効果の高い社会感情的能力のトレーニング手法をデザインしていく上で重要な要素について提案を行う。本実習は、心理系・情報系であればアンケートデータの統計解析、工学系であればトレーニング効果の測定における情報機器の活用や教育環境の設計、経営系であれば人材開発としてトレーニングを実際に導入する際のコストベネフィット分析、など、それぞれの専門分野の特徴を活かした着眼が可能であり、問題解決のための議論の幅を広げるために、多くの分野からの参加が期待される。 The outline of this course is as follows. First, students design a couple of and questionnaire survey research to clarify the problems of existing training program of social-emotional ability. The results are analyzed by using statistical methods. Based on the results, students discuss how to solve identified problems and propose a solution to design effective training for social-emotional ability. This course focuses on making full use of the characteristics of each background of students such as utilization of information equipment to assess effectiveness of the training, cost/benefit analyses for introducing the training to a company, and statistical analyses on questionnaire data. In order to expand the range of discussion for problem solving, the instructors expect and encourage student participation from many research backgrounds.
実施計画、実施場所 Schedule, location	吉田キャンパス。詳細は実施計画を参照。
履修条件 Conditions for participation	特になし。

募集人数 / Number of participants	3 名以上、8 名以下
1 次募集締切 Application deadline	10 月 6 日 (金)
応募資格 Intended participants	デザイン学履修者。デザイン学履修者以外でも、意欲ある大学院生、研究者は応募可能。但し、応募多数の場合には、デザイン学履修者を優先する。
応募方法 How to apply	デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ (下記) から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/education/fbl_pbl/
参加者の決定 Decision of participants	10 月 11 日 (水) までにメールで参加の可否を通知。 ※1 次募集で参加不可となった者を主な対象として 2 次募集を行う (10 月 13 日～17 日)。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。(原則として先着順)
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学的な研究法 (実験法・調査法・観察法など) ・ 統計解析
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	<p>以下の書籍を本実習の参考図書とする。</p> <p>社会感情的能力に関する参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールマン, D. 土屋京子 (訳) 『EQ—こころの知能指数—』 (講談社) ・ 箱田裕司・遠藤利彦 (編) 『本当のかしこさとは何か—感情知性 (EI) を育む心理学—』 (誠信書房) <p>心理統計学に関する参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南風原朝和 『心理統計学の基礎』 (有斐閣アルマ) ・ 足立浩平 『多変量データ解析』 (ナカニシヤ出版)
成果の公開方法 Publication of the results	実習中にテーマの内容・検討状況・結果や考察・それらから導かれる提案内容などを含むポスター、Web サイト、報告書などを作成する。それらはデザイン学の Web サイト上で公開される。
成績評価方法 Evaluation	出席 30%, 最終課題 30%, 活動状況 (理論や手法の修得状況) 40%をベースにして総合的に判断する。
特記事項 Special remarks	<p>テーマに関する質問があればメールで受け付ける。</p> <p>野崎優樹: [nozaki.yuki.6z@kyoto-u.ac.jp]</p>

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
1-2	10/24 (火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究 2 号館	ガイダンス: 社会感情的能力に関するレクチャー グループ活動: 課題の設定
3-5	11 月上旬	吉田キャンパス 総合研究 2 号館	ガイダンス: オンライン調査のデザイン手法 グループ活動: オンライン調査の計画立案
6-8	11 月下旬	吉田キャンパス 総合研究 2 号館	オンライン調査のデータ分析と可視化の実習 中間発表会に向けた発表準備

9	12/5(火)	吉田、桂	中間発表会(予定:18時~)
10-11	12月下旬	吉田キャンパス 総合研究2号館	データ分析結果に基づいた議論 これまでのワークを統合した議論とアイデア創出
12-13	1月上旬	吉田キャンパス 総合研究2号館	最終報告会に向けた発表準備
14-15	1月下旬	吉田キャンパス 総合研究2号館	最終報告会:実験・調査の個人報告と議論